（様式1）　平成　21　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2893700050		
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会		
事業所名	サンホームみかづきグループホーム		
所在地	兵庫県佐用郡佐用町志文515		
自己評価作成日	平成21年12月3日	評価結果市町村受理日	平成22年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6－8－102
訪問調査日	平成21年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に恵まれた環境で花に囲まれ、動物たちとともに生活できる明るい施設です。季節に応じた野菜や果物を頂くなど地域の方々から温かい目で見守っていただいています。家庭的な雰囲気の中、利用者の経験や残存機能を活かして頂きながら、花や野菜を育てる楽しみや動物たちとの触れ合いは利用者や職員の生活に潤いを与えています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

傍らに清流が流れる山里の豊かな自然に恵まれた環境にある、複合施設内のグループホームであり、日本家屋造りの外観が懐かしい印象を与える。木調の落ち着いた館内はゆったりと広く、動物たちが行き来する和やかな雰囲気の中、利用者が穏やかにその人らしい生活を送っている。合同行事を行い地域住民を招待し地域交流を図ったり、委員会活動・会議などを合同で行いサービスの質の向上につなげるなど、複合施設の長所を活かし取り組んでいる。グループホーム独自でも、接遇・言葉かけを中心に職員教育を行い、利用者の尊厳を尊重したケアが浸透するように努めている。職員は利用者の日々の会話を記録に残し、思いや意向を大切に受け止め、日々のケアに活かせるように取り組んでいる。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をご家族や職員、来客の目にとまりやすい玄関に表示している。理念を毎日唱和することにより、共有し日々のサービス提供場面においてごく自然な形で実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を玄関に掲げている。また、模造紙に職員が書いた理念を全員が見える場所に貼り、毎日唱和している。カンファレンスやミーティング時に理念を話し合い、現場のケアに結びつくよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（より合い、環境美化デー、とんど、ふれあい喫茶）等に参加している。今年は罹災のため地域行事が取りやめになったこともあり、利用者については施設行事に参加し、交流に努めている。	小･中学校の運動会や文化祭、集落単位で実施されるふれあい喫茶や自治会が行う環境美化デーなどを地域との交流を深める機会とし、積極的に参加している。また、施設で行われる4大行事（納涼祭･クリスマス会･敬老会･元旦）には地域の方々も多数参加し交流を深める場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	よろず相談の場として相談があればすぐに対応できるように取り組んでいる。サービスの利用方法など在宅新聞等により紹介をしている。今年は各個別訪問等に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて事業所の現状や行事について報告を行っている。会議で取り上げられた検討事項については助言をいただきサービスの改善に取り組んでいる。	小規模多機能と合同で定期的に開催している。利用者数･介護状況･行事などの状況報告を中心に、第三者評価の報告･時期に即した情報提供を行い、ご家族や参加者からの意見や要望を聞く機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス事業所連絡会で市町担当者と情報交換し地域高齢者のための連携が図れるように取り組んでいる。	月1回介護サービス事業所連絡会に参加し情報交換を行っている。また、個々の利用者については地域包括支援センター担当者に相談するなどの連携を図り、課題解決に向けて協働している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	⑸	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を行うとともに委員会活動を通じて取り組んでいる。	月1回、施設開催の「身体拘束をしない委員会」に参加し、得た情報をグループホームに持ち帰り、職員全員で学習し意識を高めるよう努力している。鍵をかけない暮らしについては、「危ないから」などの理由から鍵をかけることが当然のことにならないために全体会議で話し合い、外出したい様子が見えたら一緒に外出するなど安全に過ごせるよう取り組んでいる。「なくそう言葉の拘束」というカードを作り職員専用の意見箱に入れ、カードをもとに全員で話し合う機会を設けている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加する等学ぶ機会をもうけている。二人介護を行うことにより互いに連携し、注意しあうことにより虐待の防止に取り組んでいる。	各研修の中で「虐待」についての学びを深め、復命研修により職員が共有できるように努めている。カンファレンスで個々のケアを振り返り、理念に立ち返り、尊厳を尊重した虐待のないケアに取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は外部研修等で権利擁護や成年後見人制度について学んでる。必要に応じて専門職とつなぐ支援を行うことができる。	新人研修の中で制度の勉強会を実施し、各職員が一定の知識と理解が持てるように取り組んでいる。	
9	⑻	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設管理者、または、計画担当者がグループホームの様子を説明し利用者とご家族に丁寧に説明をしている。	入所相談を受けた際、面接時に契約書・重要事項説明書の説明を初め、小規模多機能とグループホームの制度の違いなどをわかりやすく説明している。契約後も、制度や契約の改定がある場合は、利用者・家族の納得が得られるように丁寧に説明するように努めている。	

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族については面会時に意見、不満、苦情等伺うようにしている。 意見箱の設置と苦情に対応する窓口があり、遠慮なく要望等を出していただける配慮をしている。頂いたご要望やご意見等については慎重に検討し運営に反映させている。	利用者からの意見や要望は日誌や連絡簿の特記事項に記載し、全職員に申し送るようにしている。ご家族については、面会に来られた時に意見を言いやすい雰囲気作りを大切にし、意見･要望を聴くようにしている。面会に来られないご家族については、定期的に電話を入れ、意見や思いを聴くようにしている。2ヶ月に1回利用料の請求書送付時に、職員のコメントを入れて送付している。苦情があった場合は、職員に事実確認の上、カンファレンスや会議で検討対処しご家族に経過を説明するようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや勤務の中で職員の意見や提案を聴くようにしている。改善できることはすぐに取り組むように努力をしている。	ミーティング･カンファレンスなどで職員の意見･提案を聞き取り、内容に応じた対応で、改善に努めている。職員間の連絡ノートを活用し運営に関する意見交換を行い、サービスの質の向上につながるように職員全員で取り組んでいる。勤務体制や異動については、ユニット間の交流の機会を設け、馴染みの関係を重視した勤務体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	職員個々の努力と勤務状態を把握し得意な分野で能力を発揮できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員や異動後の職員には個別に研修を行っている。施設外研修への参加の機会の確保にも勤務上の配慮する等努めている。施設内研修については計画的意図的に実施している。専門職を講師に招いて現場指導研修を実施する等働きながらのトレーニングも進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りとまでは行っていないが外部研修に参加し同業者との交流の機会を持っている。介護サービス事業所連絡会に参加し同業者との情報交換や交流に努めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の自宅訪問や見学に来られた時に本人自身からも思いや希望を聴くとともにご家族や関係事業所等の情報収集を行うよう努めている。。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたっては、自宅等での事前面接を行い、家族から介護に対しての不安や悩みを聴き、家族の思いや要望を受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに予約されている方々が、併設施設の小規模多機能事業所を利用されていることが多く、併設施設の利点を生かし、利用者相互の交流を図り、その人にとって必要とされる支援を事前に見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴やご本人の話を聞き、経験されてきた事や得意分野を生活の中で生かし、職員と利用者様が相互に協力し合いながら自立した生活ができるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めながら、電話や面会時には利用者の生活状況を機会あるごとに伝えるようにしている。また、家族と現状を共感し共に支えあうように努力をしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会していただけるように、入りやすい環境作りに努めている。また面会が少ない時には連絡を入れるなど、馴染みの環境が途切れないように努力をしている。	個々に馴染みの場所を訪問したい希望があった場合は、車で外出しドライブするなど、極力馴染みの環境が途切れないように心がけている。知人の面会の機会があれば、気軽に面会できるような雰囲気作りに努め、関係が継続できるように取り組んでいる。	

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに誘い合い、話を聞いてあげたり聞いてもらったりしながら互いに、支えあっておられる。さりげなく交流できるように職員も気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域に訪問した時にはご自宅に立ち寄り、お話を伺う等。ご家族の経過をフォローするなど支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いを日常の会話から把握するように努めている。意思表示のできない方については、動作や表情などからくみ取るようにしている。	入居時のアセスメントや面談で得た利用者やご家族からの情報を基に、思い・希望・意向を把握するようにしている。把握が困難な場合は、日常生活の会話の中から引き出していくよう心がけている。会話をそのまま記録するように指導し職員間で共有し、カンファレンスなどで検討し、ケアプランや日々のケアに反映できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活からの情報や面会家族から知りえた情報をフエイスシートに記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や記録をもとに変化時の対応を申し送ったり、ケース会議で現状課題や支援策を検討している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成の際はご本人やご家族のご要望ご意向を事前に伺った上でケース会議を開催した上で現状に即した計画を作成している。ご本人やご家族の意向を反映している。また、状況により主治医に相談し助言を頂いている。	契約時のアセスメントで情報収集し、利用者・ご家族の希望を基に、初期計画を作成している。本人の状況や家族の意向などに変化があった場合は、随時計画の見直しを実施している。安定している利用者については、3ヵ月に1回ケアカンファレンスを開催し長期・短期の目標を見直し・設定し、ご家族の意見を確認しながら、利用者本位の介護計画作成を行っている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話をそのまま記録すること等により日々の様子がわかるように取り組んでいる。また1カ月のまとめをすることにより情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の生活上の変化や相談を受け柔軟なサービスを提供できるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については、インターネットや併設の居宅介護支援事業所より情報を頂くなど情報把握に努めている。散髪、喫茶等のボランティアのご協力を頂いている。必要に応じて地域資源とのつながりが持てるように支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及びご家族の希望により、かかりつけ医への受診や往診を依頼している。協力病院との連携を図り希望に沿った受診対応をしている。	基本的に利用者やご家族が希望する医療機関の受診ができるよう支援している。定期的に、内科･歯科･心療内科の往診があり、健康管理･疾病の早期発見に努め、ご家族の安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の特養看護師と通所介護の看護師に気軽に相談したり様子観察を兼ねた交流も行っており。情報の共有もできている。年1回の健診を行う等健康管理に努めている。夜間の緊急時は待機看護師に依頼している。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるように入院中も定期的な病院訪問を行う。医療機関とも入退院時の情報交換を行っており、早期退院に向けては病院関係者との情報交換や相談に努めている。	家族の状況によっては入院時に付き添い入院時の支援を行っている。グループホームでの様子を「入居者情報提供書」にまとめるなど病院との連携もとっている。入院中は馴染みの関係が継続できるよう面会に行き、入院中の情報収集を積極的に行い、病院と連携を取り、早期退院に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人ご家族のご希望に沿った対応を行っている。ます。現在、ご利用中の利用者およびご家族は施設での終末期ケアを希望されている方はいらっしゃらず病院での治療魚希望されている。	入居時、利用者と家族に重度化と終末期に向けたホームの方針を説明し、同意を得ている。利用者の状況に応じて、その都度、ご本人や家族の意向を確認しながら、主治医など関係者と話し合いを重ね、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回救急蘇生･ＡＥＤ講習を行っている。利用者の急変時に早期対応ができるよう、急変等の早期発見に努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に母体施設との合同の避難訓練、防災訓練を行っている。町内が罹災した時には協力できる職員が対応しスムーズに避難できた。実体験したことを踏まえ反省とともに全職員で研修を行った。また地域の方も様子を見に来てくださり協力態勢を築く事ができた。	定期の防火訓練以外に、1～2ヶ月に1回避難訓練を実施している。研修には、火災の他に風水害に関する研修を取り入れ災害に対する意識を高め、発生時に慌てず確実に避難誘導できるよう取り組んでいる。地域の協力体制については、防災連絡網などを通してとれている。備蓄については、食料･水、オムツなどを備蓄している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に関して常に気を付けるように注意している。個人情報の取り扱いについてもプライバシーを損なわないように対応している。排泄入浴場面においても、プライバシーの保護に細心の注意をはらっている。	ミーティング･カンファレンスで理念に立ち戻り、一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけるように話し合っている。不適切な言葉かけがあった場合、または、不適切ではないかと感じた場合は、職員間の意見箱を活用して、職員全員で話し合う仕組みになっている。個人情報保護･プライバシー保護･羞恥心への配慮は、入職時に指導すると共に、日々の業務の中でも管理職が注意･助言するように取り組んでいる。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思に従って無理強いせず自己決定を支援している。ご本人の希望を聞き納得できる生活が送れるように生活支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除や洗濯、買い物の同行など同意や希望をその都度伺いながら、本人のペースや能力に応じて声かけを行っている。また、1人1人のペースに合わせた生活支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の付添にて馴染みの美容院に行かれたり、併設施設に来所される理美容師による散髪を利用して、ご本人の希望される髪形にカットしている。衣類の購入も本人の希望に沿うように買い物に同行しておしゃれを楽しむように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みや能力に応じた役割（食事の準備や後片付け）を担っていただいている。また、冬場は鍋を囲んで食事をしていただく等、季節に応じて家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいただけるように心懸けている。	厨房で調理した料理を、利用者一人ひとりの能力に応じて、盛り付け･配膳･下膳などを各ユニットで行っている。冬場は鍋料理を職員も一緒に囲むなど、季節感が楽しめる食事の場面作りに努めている。職員は、必要に応じて食事介助しながら、同じテーブルで食事を摂り、家庭的な雰囲気作りに心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと栄養バランスのとれた食事となるよう工夫をしている。食事形態も利用者の状態に応じた対応をしている。また水分量や食事摂取量等チェックして記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕食後と寝る前は入れ歯の手入れや歯磨きの支援をしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個人の習慣に合わせた誘導を行い、気持ちよく排泄できるように支援している。	２４時間の排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた排泄支援ができるよう取り組んでいる。また、排泄支援時はプライドに配慮し細やかな配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や飲み物の工夫や水分摂取を促したり、体操や散歩などの活動量の増加、腹部マッサージや温罨法など状況に合わせて対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については好みの温度･湯船につかる時間も各利用者ごとに対応している。また、機械浴槽も２か所あり能力に応じた浴槽を利用していただいている。	基本的に入浴は週２回とし、希望があればその都度入浴している。機械浴と家庭浴があり、身体的能力に応じて選択できるように対応している。季節によってゆず湯など、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩に同行し活動量の維持に努め安眠をえられるよう支援している。その人の生活習慣に合わせ安心して気持ちよく眠れるよう寝具等の選択を行っている。また、状況や体調に合わせて就寝前に足浴したり飲み物や空調を調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに情報をはさんでおり、いつでも職員が見えるようにしている。配薬から服薬までのマニュアルを作成し適切な服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、趣味や習慣、出来ることを把握し利用者一人一人が主役となれるよう支援している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型インフルエンザ流行の関係で外出の機会が少なくなっているが、天気の良い日は施設周辺を散歩している。ご家族や利用者の希望に応じ、また利用者の体調に配慮しながら外出できる機会を設けるようにしている。流動的ではあるが外出の機会を増やしていくよう勤めている。	日常的な外出支援に力を注いでいる。短時間でも5～6人ずつ川沿いを散歩し気分転換やストレスの発散ができるよう取り組んでいる。散歩以外に、買物･行事参加･もみじ観賞などの外出も積極的に行っている。外出が難しい場合は、敷地内で外気に触れ、気分転換が図れるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出の機会を設け、利用者ご自身で希望の品を選んでいただき支払いについてもレジに職員と一緒に並んでいただき支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お仕事をされている家族への配慮も忘れずに出来るだけ電話したい時に電話がかけられるように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングで、個々人でそれぞれの居場所があり、静かに過ごしていただける空間を作っている。また居室入り口には花を生けたり季節を感じていただけるよう工夫をしている。介護犬が、一緒に生活しており、和やかな雰囲気づくりに貢献してくれている。	共有空間であるリビングはゆったりと広く、心地よい採光で明るく、加湿器で湿度管理されている。足浴用機械･炬燵、ソファなども置かれ、一人ひとりがくつろげる空間となっている。廊下や窓際には季節の花々･観葉植物が置かれ五感への刺激となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のリビングには、気の合う者同士で過ごせるように数人掛けのソファを置いたり、ホームコタツを置き、家庭的で温かい居場所づくりに努めている。またソファを各所に配置することで1人で過ごす空間づくりをするなど配慮している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテレビや椅子、冷蔵庫等を持ち込んでいただき、装飾などもご家族やご本人と相談しながら行うなど居心地のよいお部屋作りを心懸けている。	木調の落ち着いた居室に、使い慣れた家具･装飾品を持ち込み、利用者が心地よく安心できる環境でその人らしい生活が継続できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはトイレマークを扉に付け、浴室はのれんで分かるようにしている。居室の入り口は、その人の家の玄関であるということで名前を書いたネームプレートを下げている。居室やトイレ、浴室等への段差をなくし、トイレ等各所に手すりを設ける等安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		